

SHIN CLUB 142

(株)辰 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS渋谷ビル5F

tel/03-3486-1570 fax/03-3486-1450



Fallingstar Terrace 撮影：堀内広治

今月のトーク/monthly talk

社長年頭挨拶

明けましておめでとうございます。

皆様にはお健やかに新たな年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、今年の干支は「辰」です。まさに今年は弊社の年です。

弊社の開設は1999年10月ですが翌年の「辰年」が実質的な創業年であり、ちょうど干支で一巡しました。

所謂、生まれた子供が成長し中学生になる年回りの会社になりました。

この間、専ら特徴ある建築に集中し、且つ、最も得意とする「施工」に特化して参りました。結果、様々な方のご支援と時流にも恵まれ何とか今日を迎えることが出来ました。

しかし今、日本はおろか世界が大きく変化している時代にいつまでも“柳の下にドジョウ”がいるとは到底思えません。これを乗り越えるには、従来の仕事に更に磨きをかけ、お客様から吟味されて選ばれる会社になることが求められます。つまり、建築の専門店である“建築屋”を極めること、ではないでしょうか。

そのためには、時代の進化に遅れを取ることなく、弊社自身が進化し、行動していかなければなりません。

冒頭に申しました通り、今年は弊社の年でもあり、全社員一丸となって計画に向かって行動します。

どうかこれまで通りの変わらぬご愛顧、ご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

2012年 元旦

(株)辰 代表取締役社長

森村 和男

Fallingstar Terrace (白山K邸)



黒い石積みの壁柱が支える、都会の落水荘

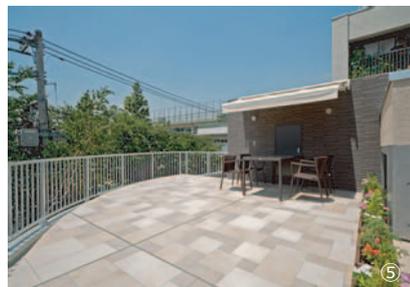
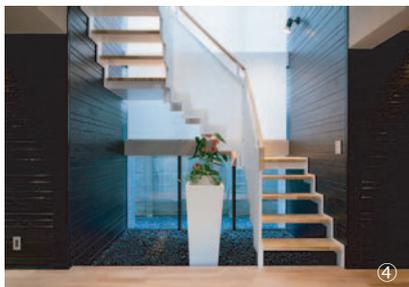
都内の緑豊かな住宅街に、個人住宅を建て替えることになった。とり壊し前の既存の住宅を訪れたところ、その屋上からの景色の素晴らしさに心を奪われた。夕日、向かいの桜並木、そして訪れる夜空に流れる星を見つけたことが設計の出発点となった。

オーナーは、フランク・ロイド・ライトが好きだという。そのことは私に森、小川、滝など、絶好の自然環境にたたずむ、ライトの代表作「落水荘」のイメージを思い起こさせた。

建物の構造として、3つの“コラム”と、間を繋ぐ“スラブ”で構成されている。“コラム”は建物全体を支える黒い石積風の垂直な壁柱で囲まれており、A～C、3つのコラムがある。中は個室を始め、キッチン、書庫、ロフト、洗面等、プライベートな機能が納められている。

“スラブ”は3つのコラムの間を繋ぐブリッジ状の部分で、肌色の漆喰風の水平ラインで表現されている。ここは外部と一体(或いは外部そのもの)の開放的な空間であり、リビングを始め、エントランスホール、階段室、中庭、バルコニー、屋上 (Fallingstar Terrace) 等、パブリックな空間が配されている。

隣接する桜並木、以前の持ち主が軽井沢から持ち帰ったという敷地内の白樺など、開口部からの景色に配慮しつつ、階段部の吹き抜けの窓の外には、壁面緑化を施し、「滝」のイメージが玄関、そして外部まで通じるようになっていく。オーナーには、屋上テラスで景色を眺めながら、家族や親しい人々との憩いのひとときを楽しんでいただければと思う。
(東秀音氏 談)



所在地: 文京区 用途: 住宅 + オフィス 構造: RC 造
規模: 地上3階 設計: 東秀音 / 東アトリエ
施工担当: 竹原 竣工: 2011年7月 撮影: 堀内広治

① 全景。2つのコラムの間にエントランス。Rのテラスが大きく前面にせり出している
② コラムA: 建物を支える石積風の壁柱 ③ コラムCから西側を望む。上下の窓から桜並木が見える
④ 玄関前の吹き抜けの階段室と玉砂利の坪庭。正面窓の外側には滝をイメージした壁面緑化が施された
⑤ 広々とした屋上 (Fallingstar Terrace)

青戸の住宅 (S邸)



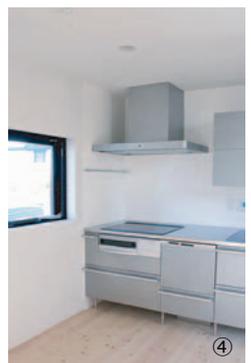
モダンなスキップフロア住宅

敷地は幹線道路の交差点に近く交通量の多いところで、北面は国道、南面は隣地建物が接近して建っているため、採光や騒音の面などで厳しい立地環境である。法規上建物の高さ制限が厳しくなかったため、平面的に解決するよりも断面的に広がりのある空間構成とすることで、ゆたかな住空間になるのではないかと考えた。しかしクライアントの要望をまとめていくと、都市住宅によくあるようなワンルーム空間の積み重ねよりも、各スペースがある程度閉じられる必要があった。

そこで、高さ方向の移動と平面的な移動を兼ねた、吹き抜けのある回り階段とすることで、各スペースを無駄なく下から上へと段階的に繋げ、回遊できる構成とした。また各スペースは今後の要望に対応できるように天井高を高くしている。スキップフロアタイプの住宅のなかでも、少し変わった新しい住宅になったのではないかと考えている。
(高橋正嘉氏 寄稿)



所在地: 葛飾区
用途: 専用住宅 構造: RC 造
規模: 地上3階
設計: 高橋正嘉 / ハイランドデザイン
一級建築士事務所
施工担当: 池上
竣工: 2011年12月
撮影: ③⑥高橋氏 ①②④⑤編集部



① 中川橋に近い国道6号線沿いに建つ黒い建物は、やはり存在感がある
② 各部屋をつなぐ建物中央の階段。内装は白色で各部屋に窓があるため明るい
③ 2階リビングは天井高3m以上
④ スタイリッシュなキッチン
⑤ 個室は引戸で自由な使用が可能
⑥ スキップフロアが多彩な空間を生み出す

2次元と3次元

東 秀音／東アトリエ



川崎 Y 医院。骨貝をイメージした建物は、マッシブな構造の円筒部分と外殻、そしてそれらをつなぐスラブで構成されている。(撮影：堀内広治)

Hideo Azuma



東 秀音氏 / 東アトリエ

撮影：アック東京

今月は、「Fallingstar Terrace」の設計者、東秀音氏をお迎えしました。大学卒業後、丹下健三・都市・建築設計事務所に入所、海外での巨大プロジェクトや、東京新都庁舎の設計に携わった東さん。まずその頃を振り返っていただきました。

一東さんが入所された頃は、丹下健三事務所には何人くらいの方がいらしたのですか。

東：30人くらいですね。新都庁舎のコンペがあることがわかっていましたから、我々の代は特に採用人数が多かった。とにかく海外の首都の都市計画など、身に余る巨大プロジェクトばかりでした。もちろん実現しなかったものもありますが、設計業務のほか『プロセスアーキテクチャ』という建築雑誌で丹下先生の業績をまとめた本の編集に携わったり、パリの展覧会にお供したりもしました。86年の東京新都庁舎のコンペでは、所員が全員他のプロジェクトを止めて泊り込んで準備を行ったんですよ。当時は、横浜市美術館やシンガポールのインドアスタジアムも並行して基本設計が行われていました。とにかくプロジェクトが大きいので、フレキシブルにその時点で絞込んで、皆で取り掛かるという具合でした。8年ほど在籍し、東京ガス新宿パークタワーの実施設計を終えて、完成1年前に退所しました。

丹下先生には、「美しきもののみ、機能的である」という言葉があります。建築は少なくとも「美しくなければ、機能的と言えないのではないか」ということです。当時の時代状況を反映していると言えますが、この言葉を軸に事務所全体が進んでいて、私自身も、とにかく建築は、「美しくなければならぬ」という気持ちで作業していました。

もちろん人によって「美しさ」の尺度は違うわけで、私が「美しい」と思っているも「そうではない」と思う人はいます。そのことは、私にとって、後々写真の趣味につながっていくわけです。

独立後は、設計事務所の下請けとして、120棟くらいマンション

の基本計画などを行っておりましたが、最初に自分1人で設計を請け負ったのは、川崎市のY医院です(左写真参照)。

7階建て、内科、整形外科、歯科、上は自宅という集合住宅でした。イメージは、「骨貝」という巻貝で、それを切ったように断面を見せている楕円の円筒部分(壁構造)と、廻りの殻の部分(鉄骨造)があって、その間を梁のないスラブでつないでいる建物です。

そもそも私は丹下事務所からの影響が大きく、空間をマッス、つまり一種の塊として捉える3次元的な発想が常にあります。模型を作って、塊ごとに機能を持たせる。紙ベースの2次元とちがって、絵に描けない3次元の配置を常に意識してきました。

ところが、対極にあるのが、2次元で空間を捉えている建物。例えば、極端ですが、直方体のある面とある面を塗り分けた建物がある—そういうものは、私としては理解できなかったわけです。

それが写真を撮ることで、ちょっと変わりつつある。6年くらい前から始めたのですが、以前は同じ空間なら、ある方向から見たものと違う方向から見たものに違いは無いと思っていたのです。もともと撮ることは苦手でした。写真は2次元の構成。3次元空間の感動がどうしても写し込めなかった。

しかし、写真を趣味にするようになって、「いい写真」というものが少し見えてくるようになると「本当は、人間は根源的には2次元でものを見ているのではないか」「多くの人がいいと思うものを、自分は見ていないのでは」と気が付き始めたのです。「いい」写真が白黒で焼いても「いい」ように3次元の空間も敢えて2次元で捉えることが結構大切だということがわかってきたのです。「自分でいいと思っている3次元の美しさは、実はその人の立場に立っていない」という反省も生まれてきました。今回の設計では、2次元での検討をもう少しするべきではないかと、模型に加え40枚ほどCGで起こしてみました。写真のように、2次元での検討がこれから創るものに活かしていければ、と思います。

—本日はどうもありがとうございました。

「写真がわかるようになって、敢えて2次元で見ていくことも大切だと気がつきました」

東 秀音

1960年 神奈川県生まれ

1985年 東京大学工学部建築学科卒業

1985年～1993年

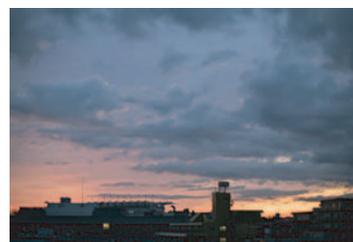
丹下健三・都市・建築設計研究所

1993年～ 東アトリエ 主宰

2000年～ (株)東京計画研究所 取締役所長

2006年～2011年

日本大学工学部建築学科 非常勤講師



3年間にわたって、朝焼けを撮り続けた定点観測の写真集『Heart of the Sunrise』から



和紙に写真を加工し、俳句と合成させた「俳絵」から

「中野富士見町の家」 現場見学会を開催しました 2011年12月17日

今回は、上棟式を終えたばかりの現場見学会の様子を、設計者の石川雅博先生に、お寄せいただきました。

非常勤講師で設計を教えている工学院大学建築学科の2年生有志を対象に、建設途中のスケルトン状態で見学会を開催した。

学生にとってはじめて見る建設現場は刺激的だったようで、現場で次から次へと現れる生々しい姿の鉄骨、配管、脱型したばかりのコンクリートなどを一生懸命見回していた。教室では建築にあまり興味がなさそうな振る舞いだった彼らもスケルトン状態の生々しい建設現場の迫力には興味津々の様子で、設計図とずっと照らしあわせて確認する学生や質問をする学生など、皆熱心に見学していた。

最近の学生はインターネットの普及によって設計を考えるにも見るにも、仮想空間の中で済ましてしまう傾向にあり、実際に足を運んで体験する労を惜しむ。その中において、普段見ることの出来ないリアルな建築現場は、パソコンの画面とは違った重量感やスケール感を生の迫力で体験することができ、学生達には大変有意義な勉強の機会になったことと思う。

こういう機会を提供していただいた御施主様と辰さんに感謝したい。3月の完成時にもう1度学生を対象とした見学会を開催し、その時には建設現場とはまた違った体験を感じとってほしいと思う。

(石川雅博氏 寄稿)



ほとんどの学生さんが現場は初めて



3階に上がって鉄骨を見る



先生の説明を図面で確認



コンクリートの躯体を実感

「中野富士見町の家 新築工事」 上棟式 12月10日



都立富士高校の近くの閑静な住宅街に建つ、2世代住宅です。

構造：RC造+S造 規模：地上3階
用途：専用住宅
設計：デザインプラットフォームアソシエイツ
完成予定：2012年3月

「百人町の家 新築工事」 地鎮祭 12月17日



設計者の方が、ご自宅を設計されます。

構造：RC造 規模：地上3階
用途：専用住宅
設計：岡本欣士
完成予定：2012年6月

「玉村集合住宅 新築工事」 上棟式 12月14日



1階が司法書士事務所、2-3階が賃貸住宅の集合住宅です。

構造：RC造
規模：地上3階
用途：共同住宅
設計：中尾実/ナカオアトリエ
完成予定：2012年2月

「六本木の家 新築工事」 地鎮祭 12月27日



2世帯住宅の個人邸です。

構造：RC造 規模：地下1階、地上3階
用途：専用住宅
設計：m-SITE-r/一級建築士事務所
加藤正明
完成予定：2012年9月

「フットサル部、大会に初出場」 12月11日 adidas FUTSAL PARK 渋谷

2011年3月に発足した、「SHIN FUTSAL CLUB」が、さる12月11日、初めて公の大会「TUCANO'S CUP」に参加しました。

大会は、adidas FUTSAL PARK 1DAY フットサル大会のピグナー(初心者)の部の1つで、6チーム参加で準優勝、幸先の良いスタートを切りました。

ここからは、お願いです。お客様の中でフットサル愛好者の方がいらっしやいましたら、ぜひ「SHIN FUTSAL CLUB」と、練習試合のお手合わせをお願いします。試合後の交流も楽しみにしております。

ご連絡は、株式会社辰の本社まで。
(TEL : 03-3486-1570)



編集後記

・新年あけましておめでとうございます。皆様にとって良い年でありますように。

(株)辰 通信 Vol.142 発行日 2012年1月10日 編集人：松村典子 発行人：森村和男
東京都渋谷区渋谷3-8-10 TEL:03-3486-1570 FAX:03-3486-1450 E-mail : daihyo@esna.co.jp URL : http://www.esna.co.jp